

(様式第4号)

第2回上田右岸地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田右岸地域協議会
2 日時	令和5年5月15日 午後1時30分から
3 会場	中央公民館 第1会議室
4 出席者	上原委員、永本委員、大宮委員、小川委員、金井委員、小林正人委員、小林みゆき委員、駒崎委員、塩入委員、清水万貴委員、竹内委員、田中委員、橋詰委員、増田委員、宮下委員、柳澤委員、渡辺委員
5 市側出席者	【事務局】星野中央地域振興政策幹、木嶋西部地域振興政策幹、横澤豊殿地域自治センター長、馬場豊殿地域振興政策幹、竹花地域内分権推進担当係長、近藤地域内分権推進担当主査、唐澤地域内分権推進担当主査、腰原地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事 【上下水道局】堀内上下水道局長、緑川経営管理課長、関上水道課長、小井土上水道担当政策幹、下林庶務係長、百瀬経営担当係長、若林施設整備係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和5年5月17日

協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項

(1) 『『上田・長野間における水道事業広域化の検討』に対する意見』の進捗状況について

上下水道局から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)8月以降に住民説明会を行う予定とのことだが、地域協議会等で出された疑問点や問題点を説明会のなかに含めて説明いただきたい。懸念点や疑問点、要望等を一緒に説明してもらえると、賛成、反対両方の意見を聞ける住民説明会になる。

(委員)2月27日に回答があったが、それぞれ委員から出た質問についても含めて、説明会で紹介するという理解でよいか。

(上下水道局)今までいただいた意見を交えて説明させていただく予定でいる。今月の広報でも広域化の取組について掲載している。今週中くらいには皆様のご自宅に届くかと思うので確認いただきたい。

(委員)広域化した場合、取水量に変化はあるか。

(上下水道局)水量はそれぞれの水源の水利権の範囲を越えての使用はできない。範囲の中で融通し合うことになる。

(委員)県議会議員と話した際、県議会議員の見方は広域化決定という話だった。我々の中では検討という段階だと認識しているが、実際にはどうなっているか。

(上下水道局)あくまでも上田市としての広域化する、しないの結論は出ていない。この3月に県の担当部署で作成した、水道ビジョン広域化推進プランの中には、各圏域が事業統合するのが望ましい。という方向が出たものではある。

県議会議員にお会いする機会があれば、どういうことで広域化決定という解釈をされているか確認いただき、何かあれば我々にも情報をいただければありがたい。

(委員)県企業局の台帳と現場の不一致が度々ある。上田市の上下水道局では、まず考えられないことが起こっているのはご存じか。

(上下水道局)県企業局の台帳の精度がどの程度のものかは把握していない。

(委員)8月以降に9ヶ所で行う予定の住民説明会の会場等については、市民にお知らせすると思うが、どういう形で住民アンケートするかによって結論が違ってくる。それを以って市の方針を見出していきたいということだが、市はいつまでに方針を出す予定なのか。

(上下水道局)いつまでという形では現在は決まっていない。人口減少社会の中で、広域化の取組については、早く市民の皆様十分に説明をしてほしいというご意見をいただいているので、住民説明会を経て上田市の方向性を見据えていく形になる。期限は決めていないが、できるだけ早く広域化の方向性は出していきたいと考えている。

(委員)私たちが懸念するのは、この協議会では真面目に議論しているが、市の中だけで決まってしまった、という話では困る。

(上下水道局)皆様から貴重なご意見をいただき、市長も上田右岸地域協議会の意見を真摯に受け止めて回答していくと言っている。また、上田市上下水道審議会でも水道広域化について説明をする中でも、審議委員の皆様、市としての方向性について審議をしていただく。市議会の方でも論議をしていくことになる。

結論ありきでなく、上田市として安心・安全な水が市民の皆様持続可能な形で、できるだけ安価に供給することが1番の目的である。できるだけ早く結論を出すことで、これから先子どもたちに対して負荷、負担を軽減できるような形を見出すことが、今の社会を担っている私たちは必要なのではないかと考える。

長野県環境部が広域化推進プランを策定したことを踏まえた中で、県全体の方針が出たので、この方針に対して各自治体はその方向に行くべきか否かを判断することになると考えている。

(委員)国からの補助金には期限があるのか。

(上下水道局)国の補助事業としては期限がある。令和16年までの最長10年間である。その期間を見据え、市としては水道広域化について検討していく形になる。

あくまでも皆様からいただいた意見について検討する中で、上田市単独がよいのか、広域化がよいのか、上小圏域ではできないのか、色々な意見をいただいているので、検討しながら結論を出していきたい。

補助事業に捉われて上田市としての方向性を見誤ることのないようにしたい。

(委員)市の方向性という考え方なのだろうけれど、上下水道局の中で検討はされているのか。

(上下水道局)上下水道局だけでは判断できないので、市長部局も含めて上下水道検討委員会を立ち上げて進めている。全職員への周知は足りていない部分があるので、説明会をしていきたいと考えている。

(委員)実際に水道を運営している局としての方針は、市の全体の中に示すというステップはあるのか。

(上下水道局)私たちと有識者で検討内容を精査させていただき、第三者の目で見させていただきながら、局内の方向性を示した中で庁内に諮らせていただき、市民、議員の皆様にも説明していきたい。

(委員)上田の水が長野の方に流れていって、上田の水が無くなってしまいうイメージがある。そうではなくて、それぞれの事業体ごとに水道事業を行っていて、それ自体は変わらないという認識でよいか。

人材補充、財政基盤は一緒になり、運営母体が大きくなるが、それぞれの部署の人たちは変わらないということか。取水量が変わらなくなれば、運営母体が変わるだけでやることは変わらないということか。

(上下水道局)実際の運営について、染屋浄水場などの運営自体は変わらない。それぞれの限られた労力の中で運営していく。人口減少社会のため、人口が50年後には4割減の6割となると推計されている。それぞれの事業体で余った大きな施設を守り続けるのは大変であり、効率も悪い。20年30年先を視野に入れ、下流の施設は作らなくてよいのであれば、地域全体でかかる経費が削減できる。10年後に安くなる、効率がよくなる。というのではなく、長い年月を視野に入れた取り組みとなる。

施設自体が統廃合するという事はありますが、すぐに無くなるということではなく、将来を見据えた取り組みである。

(委員)今後も人口減少に対して水道事業の持続性を確保するための方策の1つとして考えていくわけだが、上田・長野間の広域化は、平成18年新上田市発足以来の大事業である。

市長の公約に掲げる、市政の再構築に関わるだけでなく、市民生活の維持・向上に関わる重大な課題である。

当地域協議会としても引き続き市民合意を得て進めるべきだと考えている。

本日出された課題、これまでの進捗状況、市民説明会を踏まえて、必要に応じて進捗状況の報告をしていただきたい。

(2)分科会の検討状況について

各分科会長から報告

(3)分科会に分かれて調査・研究

上田右岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

【第1分科会:教育・福祉・子育てについて】

調査研究テーマについて協議

市教育委員会学校教育課から制度の説明

《CAPについて》

・子どもがいじめ、暴力、不審者から自分を守るためロールプレイを通じて学ぶ取り組みである。令和元年度は3校、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により実施できず、令和3年度は2校であった。今年度の募集はこれから行う。経費は教育委員会と学校の双方で負担する。(PTA、学年費から集めて実施する)

-意見交換-

- ・先生や保護者にも内容を理解してもらうことで初めて効果が生まれる。
- ・他市では CAP を人権教育と捉え生涯学習・文化財課で担当することが多いようだが CAP 事業は学校だけで終わらせてよいものではない。
- ・自分を大事に思えなければ友達を大事にはできない。ロールプレイ後のトークタイムで初対面でも色々話してくれる子どもも多い。家のことを先生に話してはいけないと思っている子もいるが、話をしてくれる子が増えたと先生からも言われる。
- ・学校で嫌なことを先生に話したら、「話してくれてありがとう」と受け止めてもらえた子もいる。
- ・CAP では先生も子どもからの話の聞き方があることを学んでもらう。
- ・授業の時間を使うので、年度当初から計画に入れておく必要がある。

《不登校児童生徒を支援する民間施設等に関するガイドライン策定について》

・不登校になっても相談するところがない。本来、小・中学校で学ぶべき人との関わりを経験しないことから社会性が身に付かず、引きこもりの大きな要因となる。不登校生徒への支援は学校への登校を目指すものではなく、自ら主体的に捉え社会的に自立することを目指す必要があるというものに変わった。特色を持った民間の居場所も増えている。ガイドラインが不登校児童、学校、保護者に何が必要なのか考えるきっかけになればと考えている。

-意見交換-

- ・保護者は、勉強の遅れよりも社会からの孤立、働きにも行けないことを心配している。おけまーるジュニアセンターに来た時は、まず好きなことをして、その後勉強をする。とにかく外に出ることが第1の目的である。
- ・友達とのトラブルよりも、学校で大きい声を聞くことが嫌など不登校児童の状況はそれぞれ違う。
- ・行けるならどこでもよいという先生と、どこかに行かれるのならなぜ学校に来ないのかという先生がいる。“学校”自体が嫌なのだから、行かれるところへ行ってよいということを先生たちに理解してもらいたい。

《高齢者等の交通支援と住民自治組織について》

・長野市は住民自治協議会の中に全部の組織が入っている。上田市は地域のまちづくり協議会でも同じことをバラバラに話していて、無駄な時間を使っている。

【第2分科会：公共施設・事業について】

調査研究テーマについて協議

市営住宅視察時(6月19日)の住宅政策課への聞き取り事項について検討

- ・「入居率」がどのくらいか知りたい。
- ・敷地の草刈り等の管理は誰が行うのか。
- ・耐震対策はどのくらい進んでいるか。
- ・中も見てみたいが可能か。(→住宅政策課と協議)
- ・移住する人たちに土地を提供するなどの検討をしてはどうか。

【第3分科会：建設・産業について】

上田ビジョン研究会主催の第6回上田リバーズ会議「交通まちづくりシンポジウム」(2023年3月18日)の前半部分「宇都宮浄人氏の基調講演」を視聴

以下、講演要旨

- ・上田市民の移動スタイル…自家用車が多い。
- ・効率性の考え方として、学校の統廃合によって駅周辺に新しい学校を設置する。
- ・SUMP(サンプ:Sustainable Urban Mobility Plan)…持続可能な都市モビリティ計画
- ・公共交通は公共サービスとして公的に支援する。

(4)その他

【次回】

日時 6月26日(月) 午後1時30分～

場所 西部公民館

4 事務連絡

5 閉会